

震度6弱を記録した榛南地区を中心に静岡を襲った8/11の地震、そして政権が変わり未来が開けていくという期待以上に、問題山積で重さばかりをズシリと感じる社会情勢。

9月、脂がのりホンマに美味しい秋刀魚の季節、Positive思考と行動でと努めながら、四苦八苦している状況ですが、元気にお過ごしでしょうか？

ここ半年余り「榛原総合病院の存続問題」が住民にとって大問題となっておりますが、経営母体を換える話を二転三転させながら、借金をさらに膨らましていく状況です。大元の原因は 勝手・気ままな 地方自治の住民に対する「医療のコンビニ化を助長する政策、そしてこれに乗せられてしまった住民」、行政が聞く耳を持たず、十分な議論も無く起った「浜松医大からの派遣医師の引き上げ」これが脳外科医からはじまり、循環器内科医全員引き上げに及んだこと、そして最終的には 病院側の「救急医療放棄」につながったと考えます。

現在、金銭的な理由から議論され9月に断行予定であった公設民営化を、「指定管理者公募なし」の状況から、現病院職員が示した規模縮小(Down Sizing)策を直視せずに、行政側が医療法人「徳州会」に懇願することにより公設民営化の期限を先送りさせ、この方向付けを模索している状況のようですが、多くの有識者が呆れ果て、この件に関して、多くを語らなくなりました。

結局、情報が交錯しており、お互いのCommunicationがとれていない。茂庭将彦院長をはじめ浜松医大から赴任されている医師をはじめとする現職員側と、公設民営化を請け負う立場の医療法人「徳州会」側、この両者に対して、行政が間に入り、行政側の自己防衛の為に、責任転換の手段として両者が使われ、都合の悪いことには口に出さないから本筋の話し合いが成されていない、交渉になっていない状況。このように分析され、口を挿めば責任転換の矛先にされてしまい、誰も何も出来ない状態。社会情勢から行政の足元、大きなお金の動きまでのデータを分析し行動する力を持つ徳州会が、簡単に受諾する状況は皆無と思われます。このような行政の姿勢が定まらない状況、指摘しても訂正なく、曖昧な誤魔化しの姿勢は、行政の先程述べた の過程でも、市・町の会議でも同じことであると考えます。指摘されたら「正す」べきです。

豚インフルエンザの感染が、この夏思えぬ状況で広がってしまいました。ワクチンだけに頼ることで無く、普段の生活の中での予防を万全にしてください。

Jリーグ ジュビロ磐田、また下が見えてきて踏ん張りの時、耐え・忍び・堪える間を経て“底から脱出”、上位との対戦で本領発揮を期待します。

遅くなりましたが、康寿診報 142・143・144号 送らせて頂きます。

敬具

平成 21 年 9 月 15 日

加藤寿夫

ホームページが新しくなりました。<http://www.katojin.jp> ぜひご覧ください。